

統合失調症スペクトラム障害が 大腸がん治療の受療に与える影響： 院内がん登録と DPC データを用いた 多施設後方視的コホート研究

FUJIWARA Masaki
藤原 雅樹
岡山大学



優秀
口演賞

この度は、日本がん登録協議会第 35 回学術集会 in 米子にて、優秀口演賞という栄えある賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究は、国立がん研究センターが全国のがん診療連携拠点病院等から提供を受けた院内がん登録情報および DPC データを用いて実施した後方視コホート研究です。研究の実施にご協力いただいた共同研究者の先生方、そして日々質の高いデータを蓄積してこられた全国のがん登録実務者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本研究では、2018年から2021年に大腸がんと診断され、少なくとも 1 回の入院治療を受けた患者を対象としました。解析対象者は 248,966 例で、統合失調症スペクトラム障害 (SSD) 群は 2,337 例でした。臨床ステージの分布は有意な群間差があり、SSD 群では早期に診

断される患者が少ない傾向がみられました。年齢、性別、ステージ等を調整した多変量ロジスティック回帰分析の結果、SSD 群は非精神疾患群と比較して、手術・内視鏡治療（調整オッズ比 [95% 信頼区間]: 0.83 [0.73-0.94]）、ステージ III での術後補助化学療法（0.33 [0.26-0.41]）、ステージ IV での全身療法（0.23 [0.17-0.31]）といずれも治療を受ける者が有意に少ないという結果でした。

SSD を有する大腸がん患者さんは標準的ながん治療、特に全身療法の受療において障壁に直面していることが示されました。今後も、精神疾患を有する患者さんのがんの早期発見・がん治療を支援する体制づくりに資する研究を進めるとともに、目の前のがん患者さん一人ひとりの支援にも力を尽くしていきたいと思ひます。

ケースファインディング支援 システムの開発と導入効果

HARADA Tomoka
原田 智可
佐賀県医療センター好生館



最優秀
ポスター賞

この度の日本がん登録協議会第 35 回学術集会米子大会におきまして最優秀ポスター賞に選出いただき大変光栄に存じます。ご指導いただいた共同演者の皆様をはじめ、大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

当館では院内がん登録業務において毎年 15,000 件を超えるケースファインディングを行っています。さらにダブルチェック体制を取っているため作業量はその 2 倍となり、担当者にとって大きな負担となっていました。この課題を解決するためプログラミング言語は Python、マウスやキーボードの操作を自動化する RPA を用いてルールベースの自動判定システムを開発しました。

Python による判定ロジックでは病理レポートと ICD-O-3.2 形態用語の照合、診察記事のアセスメント・プラン欄からの病名抽出、病名登録情報や診療行為情報を組み合わせた段階的な判定を行います。あわせて、電子カルテからの診察記事情報の取得と、院内がん登

録システム (Hos-canR NEXT) へのステータス変更を RPA で自動化しました。これにより初回のケースファインディング作業の大部分を自動で処理できるようになりました。運用開始後 3,804 件を対象に精度評価を行ったところ中級認定者による人的判定との一致率は 98.1%、年間約 660 時間の作業時間短縮を見込んでいます。

本研究では AI を全面的に活用してシステム開発を進めました。様々ながん治療のパターンや経過を指定し、当館の記載様式に沿った診察記事のダミーデータを AI と作成し、その仮想症例をもとに判定ロジックの構築と検証を重ねました。AI を活用した業務改善の現在地を具体的に確かめられたことも大きな収穫であったように思います。多重がん症例への対応やシステムの引き継ぎなど課題も多く残りますが、院内がん登録業務の効率化に少しでも貢献できるよう今後も取り組みを続けてまいります。